

お台場旧防波堤（鳥の島 2 島）における鳥類のモニタリング調査 夏季調査（7 月）報告書

令和元年 8 月 （株）一般社団法人 お台場海づくり協議会

1. 調査目的

お台場海浜公園内防波堤（通称鳥の島）における鳥類の生息環境の保全について検討するために、当地における鳥類の利用状況の現況を把握するとともに、今後の経年変化を把握するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

お台場海浜公園内防波堤（通称鳥の島）2 島及び周辺水域（周辺 50 m 程度）

3. 調査期日等

調査期日等を表 1 に示す。

表 1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和元年 7 月 30 日（火）	8 : 00 ~ 14 : 00	晴

4. 調査方法

各調査項目において、倍率 8~10 倍程度の双眼鏡や倍率 20~60 倍程度の望遠鏡などを必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、上陸後に実施する（2）~（4）の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2 島に調査員を 1 名ずつ配置し、2 島同時に実施した。

（1）船上センサス

鳥の島の 2 島の 50 m 程度沖を船舶により定速で周回しながら、鳥の島及び周辺を観察し、目視または鳴き声などで確認された鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。

（2）ラインセンサス

各島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速 1~2 km 程度の速度で歩きながら目視または鳴き声などで確認された鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。センサスルートは各島に 1 本を設定し、観察範囲は片側 50 m（両側 100 m）とした。

(3) 定点観察調査

2島の各2点に眺望の卓越した定点を設定し、目視または鳴き声などで確認された鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。観察半径は50m程度、調査時間は各30分間とした。

(4) 任意観察調査

鳥の島の2島を任意に踏査し、目視または鳴き声などで確認された鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。



写真 1 各調査手法における調査風景



図 1 調査地点図

5. 調査結果

(1) 現地調査結果

- 現地調査の結果、8目15科19種が確認された(表2)。
- 確認種の多くは水域やその周辺に生息する鳥類であり、カワウやウミネコ、ハクセキレイなど8種が確認された。島内の樹林では、ヒヨドリ、カワラヒワなど森林やその周辺に生息する鳥類が確認された。そのほか、猛禽類であるトビやオオタカ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、都市部でも見られるハシブトガラス、ツバメ、スズメなどが確認された。
- 渡り区分別にみると、カルガモやムクドリなどの留鳥(ある地域で一年中見られる種)が最も多く、そのほかツバメのような夏鳥(ある地域で夏季に見られる鳥)も確認された。
- 重要種はダイサギ、コサギ、イソシギ、トビ、オオタカ、チョウゲンボウ及びハヤブサの合計7種が確認された(表2)。島内では、護岸周辺にとまるイソシギとオオタ

カが確認された。島周辺の海域では、飛翔するダイサギやコサギ、採餌するトビ、チョウゲンボウ、餌を運搬するハヤブサが確認された。

- 確認された重要種のうち、特に選定基準上の重要度が高い種としては、オオタカ、チョウゲンボウ、ハヤブサが挙げられる。オオタカは環境省レッドリストでは準絶滅危惧、東京都レッドデータブックでは絶滅危惧 IA 類に該当する。チョウゲンボウは東京都レッドデータブックでは絶滅危惧 IB 類に該当する。ハヤブサは国内希少野生動物植物に指定されているほか、環境省レッドリストでは絶滅危惧 II 類、東京都レッドデータブックでは絶滅危惧 IB 類に該当する。
- 外来種は確認されなかった（表 2）。
- 確認個体数が特に多かった種はカワウであった。カワウは、船上センサスでは 2 島で合計 61 個体が確認され（表 3）、個体数の 69%を占めた。定点観察調査では合計 68 個体が確認され（表 5）、個体数の 56%を占めた。島内の護岸にとまって休息する個体がみられたほか、島の内外の上空や海域を飛翔する個体が確認された。
- 東島の草地はキジバトなどの採餌環境として利用されており、ヨウシュヤマゴボウの実を採餌する個体が確認された。
- キジバトなどがヨウシュヤマゴボウの実を採食する様子が確認されており、防風のため維持されている高茎草地が、こうした鳥類にとっては採餌場所として機能していると考えられる。
- **今回、プレ東京オリンピック開催の競技会場整備工事のため、東島と西島の間に土嚢が詰められ、小型船舶で作業員が複数回、島内に立ち入る様子が見受けられた。鳥類はこれらを警戒する可能性が高く、今後工事が継続することで鳥類の生息数が一時的に減少する可能性がある。**



写真 2 鳥の島周辺のプレオリンピック工事状況

(2) 前回調査との比較

- 平成 29 年の秋季（10 月）～平成 30 年の夏季（7 月）までの調査を第 3 回、平成 30 年の秋季（10 月）～令和元年の夏季（7 月）までの調査を第 4 回とし、第 3 回と第 4 回の夏季調査の結果を比較した。表 6 に確認種の比較、表 7～9 は手法別に、表 7 に船上センサス結果、表 8 にラインセンサス結果、表 9 に定点観察調査結果の比較をそれぞれ示した。確認種数は、第 3 回では東島で 17 種、西島で 15 種、合計 18 種、第 4 回では東島で 17 種、西島で 11 種、合計 19 種であった（表 6）。第 3 回の確認種（18 種）のうち、78%の種（14 種）は第 4 回でも確認されており、鳥類相に大きな変化はなかった。
- 表 10 に平成 27 年の夏季以降の、全調査回における確認種目録を示した。全調査回における通算の総種数は 69 種となった。
- 今回の夏季調査では 4 種の猛禽類（トビ、オオタカ、チョウゲンボウ、ハヤブサ）が確認されており、0 種だった昨年の夏季調査と比べやや増加した（表 6）。いずれの種でも採食に関連した行動が確認されており、トビとチョウゲンボウは海上より下方を注視しつつ探餌飛翔、オオタカは護岸で海域を注視しながらの探餌とまり、ハヤブサは餌を運搬して飛翔する様子がみられた。**島及び周辺海域は、猛禽類にとって好適な採餌環境になっていると考えられる。**

表 2 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	調査時期		重要種選定基準			
				夏季(7月)		①	②	③	④
				東島	西島				
1	カモ	カモ	カルガモ	○					
2	ハト	ハト	キジバト	○	○				
3	カツオドリ	ウ	カワウ	○	○				
4	ペリカン	サギ	アオサギ	○	○				
5			ダイサギ	○	○				VU
6			コサギ	○	○				VU
7	チドリ	シギ	イソシギ	○					VU
8		カモメ	ウミネコ	○	○				
9	タカ	タカ	トビ	○					NT
10			オオタカ			○			NT
11	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	○					EN
12			ハヤブサ	○			国内	VU	EN
13	スズメ	カラス	ハシブトガラス	○	○				
14		ツバメ	ツバメ	○	○				
15		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○					
16		ムクドリ	ムクドリ		○				
17		スズメ	スズメ	○	○				
18		セキレイ	ハクセキレイ	○					
19		アトリ	カワラヒワ	○					
合計	8目	15科	19種	17種	11種	0種	1種	2種	7種

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

注 2. 重要種選定基準は以下の通りである。

- ①文化財保護法(昭和 25 年、法律第 214 号)
天:天然記念物 特:特別天然記念物
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号;平成 23 年改訂)
国内:国内希少野生動植物 国際:国際希少野生動植物
- ③「環境省レッドリスト 2019 の公表について」(平成 31 年、環境省)における掲載種
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類
NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
- ④「レッドデータブック東京 2013~東京都の保護上重要な野生生物種(本土部解説版)~」(平成 25 年、東京都)における区部の掲載種
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類
NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 留意:留意種

表 3 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				夏季(7月)		
				東島	西島	
1	カモ	カモ	カルガモ	4	0	4
2	ハト	ハト	キジバト	0	1	1
3	カツオドリ	ウ	カワウ	16	45	61
4	ペリカン	サギ	アオサギ	7	4	11
5	チドリ	シギ	イソシギ	2	0	2
6		カモメ	ウミネコ	1	0	1
7	タカ	タカ	オオタカ	0	1	1
8	スズメ	カラス	ハシブトガラス	1	3	4
9		ムクドリ	ムクドリ	0	1	1
10		スズメ	スズメ	0	3	3
合計	7 目	10 科	10 種	31 種	58 種	89

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 4 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				夏季(7月)				
				L1(東島)		L2(西島)		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	ハト	ハト	キジバト	1	11%	1	7%	2
2	カツオドリ	ウ	カワウ	4	44%	5	33%	9
3	ペリカン	サギ	アオサギ	2	22%	2	13%	4
4			コサギ	1	11%	0	0%	1
5	チドリ	カモメ	ウミネコ	0	0%	1	7%	1
6	スズメ	カラス	ハシブトガラス	0	0%	6	40%	6
7		スズメ	スズメ	1	11%	0	0%	1
合計	5目	6科	7種	9	100%	15	100%	24
				5種		5種		7種

注1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。

表 5 定点観察調査結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				夏季（7月）				
				東島		西島		
				P1	P2	P3	P4	
1	カモ	カモ	カルガモ	2	0	0	0	2
2	ハト	ハト	キジバト	1	0	0	0	1
3	カツオドリ	ウ	カワウ	14	26	14	14	68
4	ペリカン	サギ	アオサギ	1	1	2	2	6
5			ダイサギ	0	1	0	1	2
6			コサギ	0	0	0	1	1
7	チドリ	カモメ	ウミネコ	1	3	15	2	21
8	タカ	タカ	トビ	0	1	0	0	1
9	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	0	1	0	0	1
10			ハヤブサ	1	0	0	0	1
11	スズメ	カラス	ハシブトガラス	0	0	3	2	5
12		ツバメ	ツバメ	3	0	0	1	4
13		スズメ	スズメ	4	1	0	3	8
合計	8 目	10 科	13 種	27 種	34 種	34 種	26 種	121

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 前回調査結果との比較（夏季）

No.	種名	調査時期			
		夏季(7月)			
		第3回 (H29~H30)		第4回 (H30~H31/R1)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	○	○	○	
2	キジバト	○	○	○	○
3	カワウ	○	○	○	○
4	ゴイサギ	○			
5	アオサギ	○	○	○	○
6	ダイサギ	○		○	○
7	コサギ	○	○	○	○
8	コチドリ	○	○		
9	イソシギ	○	○	○	
10	ウミネコ	○	○	○	○
11	オオセグロカモメ	○			
12	トビ			○	
13	オオタカ				○
14	チョウゲンボウ			○	
15	ハヤブサ			○	
16	ハシブトガラス	○	○	○	○
17	シジュウカラ	○	○		
18	ツバメ			○	○
19	ヒヨドリ	○	○	○	
20	ムクドリ	○	○		○
21	スズメ	○	○	○	○
22	ハクセキレイ	○	○	○	
23	カワラヒワ		○	○	
合計	23種	17種	15種	17種	11種
		18種		19種	

表 7 前回調査との比較：船上センサス結果（夏季）

No.	種名	調査時期			
		夏季(7月)			
		第3回 (H29~H30)		第4回 (H30~ H31/R1)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	3	1	4	0
2	キジバト	0	0	0	1
3	カワウ	19	50	16	45
4	アオサギ	4	2	7	4
5	コサギ	3	0	0	0
6	イソシギ	0	2	2	0
7	ウミネコ	0	1	1	0
8	オオタカ	0	0	0	1
9	ハシブトガラス	0	0	1	3
10	ムクドリ	0	0	0	1
11	スズメ	4	1	0	3
合計個体数		33	57	31	58
合計島別種数		5種	6種	6種	7種
合計種数		7種		10種	

表 8 前回調査との比較：ラインセンサス結果（夏季）

No.	種名	調査時期							
		夏季(7月)							
		第3回(H29~H30)				第4回(H30~H31/R1)			
		L1(東島)		L2(西島)		L1(東島)		L2(西島)	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%
2	キジバト	2	9%	1	5%	1	11%	1	7%
3	カワウ	7	30%	5	23%	4	44%	5	33%
4	アオサギ	1	4%	0	0%	2	22%	2	13%
5	コサギ	0	0%	1	5%	1	11%	0	0%
6	ウミネコ	0	0%	0	0%	0	0%	1	7%
7	ハシブトガラス	1	4%	5	23%	0	0%	6	40%
8	シジュウカラ	2	9%	0	0%	0	0%	0	0%
9	スズメ	10	43%	8	36%	1	11%	0	0%
10	ハクセキレイ	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%
合計	10種	23	100%	22	100%	9	100%	15	100%
		6種		7種		5種		5種	

表 9 前回調査との比較：定点観察調査結果（夏季）

No.	種名	調査時期															
		夏季（7月）															
		第3回（H29～H30）								第4回（H30～H31/R1）							
		東島				西島				東島				西島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	7%	0	0%	0	0%	0	0%
2	キジバト	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%
3	カワウ	4	44%	20	80%	2	22%	72	89%	14	52%	26	76%	14	41%	14	54%
4	アオサギ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4%	1	3%	2	6%	2	8%
5	ダイサギ	1	11%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	1	4%
6	コサギ	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4%
7	イソシギ	0	0%	0	0%	1	11%	2	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
8	ウミネコ	0	0%	0	0%	3	33%	3	4%	1	4%	3	9%	15	44%	2	8%
9	オオセグロカモメ	1	11%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
10	トビ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%
11	チョウゲンボウ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%
12	ハヤブサ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%
13	ハシブトガラス	1	11%	0	0%	1	11%	0	0%	0	0%	0	0%	3	9%	2	8%
14	シジュウカラ	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
15	ツバメ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	3	11%	0	0%	0	0%	1	4%
16	ムクドリ	1	11%	1	4%	1	11%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
17	スズメ	1	11%	4	16%	1	11%	0	0%	4	15%	1	3%	0	0%	3	12%
18	ハクセキレイ	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
19	カワラヒワ	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	19種	9	100%	25	100%	9	100%	81	100%	27	100%	34	100%	34	100%	26	100%
		6種		3種		6種		7種		8種		7種		4種		8種	

表 10 (1) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 4 回)

No.	種名	調査時期							
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31 夏/R1)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	オカヨシガモ				○		○		○
2	マガモ		○	○	○		○	○	○
3	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○
4	オナガガモ				○	○	○		
5	コガモ							○	
6	ホシハジロ						○	○	
7	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○
8	ウミアイサ		○					○	○
9	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○
10	ミミカイツブリ			○					
11	ハジロカイツブリ	○	○	○	○				○
12	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○
13	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○
14	ゴイサギ					○			
15	ササゴイ		○						
16	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○
17	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○
18	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○
19	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○
20	コチドリ	○	○		○	○	○		
21	タシギ								○
22	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○
23	キョウジョシギ					○	○		
24	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○
25	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○
26	カモメ	○	○			○			
27	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○
28	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○		
29	コアジサシ	○	○	○	○	○	○		○
30	ミサゴ	○		○			○		○
31	ハチクマ	○							
32	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○
33	ハイタカ		○		○				
34	オオタカ	○		○	○	○	○		○
35	ノスリ		○	○	○	○		○	
36	カワセミ			○			○		
37	チョウゲンボウ		○				○	○	
38	ハヤブサ			○	○	○	○	○	○
39	モズ			○	○	○	○	○	○
40	カケス				○				

表 10 (2) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 4 回)

No.	種名	調査時期							
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31 夏/R1)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
41	オナガ			○	○	○	○		
42	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○
43	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○
44	ヒバリ						○		
45	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○
46	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○
47	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	
48	オオムシクイ								○
49	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○
50	オオヨシキリ			○		○			
51	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		○
52	コムクドリ				○	○			
53	シロハラ	○	○	○	○				
54	アカハラ	○			○			○	
55	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○
56	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○
57	イソヒヨドリ	○	○		○		○		○
58	キビタキ	○				○			
59	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○
60	キセキレイ			○					
61	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○
62	セグロセキレイ				○				
63	タヒバリ						○		
64	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○
65	シメ							○	
66	ホオジロ	○		○	○			○	
67	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○
68	オオジュリン			○					
69	ドバト	○	○					○	
合計	69 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	38 種	38 種

 <p>カルガモ</p>	 <p>カワウ</p>
 <p>アオサギ</p>	 <p>ダイサギ(重要種)</p>
 <p>コサギ(重要種)</p>	 <p>イソシギ(重要種)</p>
 <p>ウミネコ</p>	 <p>トビ(重要種)</p>
 <p>オオタカ(重要種)</p>	 <p>チョウゲンボウ(重要種)</p>

写真 3 鳥の島で確認された主な鳥類 (1)



写真 3 鳥の島で確認された主な鳥類 (2)